

会 議 録

会議の名称	平成23年度 第2回 地域保健計画推進部会				
開催日時	平成23年7月22日(金) 午後7時～午後8時45分				
開催場所	いきいきプラザ2階 学習室				
出席者 及び欠席者	<p>(委員) 15名 (委員14名+代理1名) 小杉真紗人委員・西願久美子委員・福田博元委員・橋本健一委員 杉本美恵子委員・五十里一秋氏(桐生宏司委員代理) 新井幸子委員・千木良美代子委員・濱田勲委員 五野井三千代委員・佐藤淳一委員・江口登委員・木村雅亮委員 目黒英雄委員・鈴木克也委員</p> <p>(事務局) 9名 菊池健康福祉部長・田中健康福祉部次長 [健康課] 中島課長 地域保健第1係 … 菅野係長・大野保健師 地域保健第2係 … 原子課長補佐・原田主任 庶務係 … 清水係長 [地域福祉推進課] 新井主査</p> <p>(オブザーバー) 2名 村岡正英氏・山根美紀氏(株式会社アイ・アール・エス)</p> <p>(欠席者) 1名 丹治勝委員</p>				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由	/	傍聴者数	0名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 挨拶 3. 報告 (1) 策定委員会第1回開催(6月20日) 4. 議題 (1) 「第3次地域福祉計画」・「健康ひがしむらやま21」の評価と課題について (2) その他 5. 閉会 				
問い合わせ先	健康福祉部健康課 地域保健第1係・第2係 担当者 菅野・原田 電話 042(393)5111(代)(内線3216・3218) ファクス 042(394)7399(健康課直通)				

会 議 経 過

1. 開会（菅野係長）

委嘱状の交付（菊池健康福祉部長）

前回会議欠席の委員（杉本美恵子氏）に委嘱状を交付。杉本氏より挨拶。

2. 挨拶（菊池健康福祉部長）

- ・ 気温の変動が激しいため、体調の維持・管理に留意いただきたい
- ・ 東日本大震災にかかる市職員の派遣について
（これまでに市より10名を派遣。今後更に3名を追加派遣予定）

田中健康福祉部次長紹介。次長より挨拶

本日の配付資料の確認・説明。（菅野係長）

配布資料 資料1 策定委員会資料
※ 前回配付資料についても一部使用

以下、部会長による議題進行

3. 報告

(1) 策定委員会第1回開催（6月20日）

資料1を参照

【事務局】資料1のとおり、各部会より策定委員会の委員を選出。
個別計画の策定と一体で進めていきたい。
第1回の策定委員会では全体のイメージをお伝えし、理念と目標を決めることとした。これを踏まえ、個別の部会で検討していく。
重点的にまとめた方がよいものは策定委員会で検討する。

当初は8月下旬の第2回策定委員会で理念と目標を決定し、9月で個別の検討に入れればとしていたが、間に合わない場合は9月中旬までに策定委員会を開催し、決定することとしたい。

8月30日（火）に第2回策定委員会を予定。それまでに現行の計画についての個別評価を各部会で行ってほしい。

4. 議題

(1) 「第3次地域保健計画」・「健康ひがしむらやま21」の評価と課題について

【事務局】前回配付資料『「地域保健計画」「健康ひがしむらやま21」評価』

について、検討いただきたい。

【委員】この内容でよいかどうか、ふくらませるのかを順番に検討したい。まず「基本目標1 みんなで支え・参加する東村山の福祉」について検討したい。

【委員】取り組み状況に関し、全町の保健推進員の存在について。組織が発足して何年かたっているが、高齢化が進んでいるとこのことを知り合いの推進員から聞いている。今後の活動の引き継ぎをどのようにしていくつもりか。高齢化について、事務局ではどう判断しているか？

【事務局】若い人には働いている人が多く、また、子育て中の人も多い。若年層をどう取り込んでいくかについては、現時点では啓発活動しかないというのが現状である。その現状の中で、介護予防の一環として推進員活動が展開されればよいと考える。

【事務局】自分も推進員をやっているが、年齢層は50代から70代がほとんどである。一般公募で若い方が入ることが多い。
(推進員会主催の)行事・イベントを開催した時に、受付を若い方よりも年配の方が担当すると安心するということもある。また、推進員ではないが若い人に声をかけて行事・イベントを手伝ってもらったこともある。

(次期推進員候補として勧誘しているという側面もある)

【委員】その場で手伝ってもらえるというのはよいと思う。高齢者でも元気な方はいる。

「このように年齢を重ねられたら」というモデルになる。新たな推進員が加入することの方が大事か、との気もする。

【委員】(推進員が)色々なことをコーディネートできればいいのかも知れない、という気もする。
「運動」と言われるとアクティブなものを考えてしまうが、そういったことと、推進員会としての活動はどのように切り分けて考えたらいいのか？

【事務局】「アクティブな活動」ということは考えていない。からだの健康、こころの健康

「何でもあり」の世界になっている。

運動的なものについては体力づくり推進委員会にカバーしてもらったりしており、また、運動といっても室内での(簡易な)ものに限られていることがほとんどである。

チラシ等の広報で「だれでもできる」等の文言を入れることで参加希望者が選択できるようにしてはいる。

【委員】少し概念が異なっているか？

生活習慣病・介護予防に対応するのであれば運動も必要である。保健推進員が(方向性について)コーディネートできればいいのでは？

【委員】健康のつどいで、来場者参加型のイベントを設けるとするのはどうか？少しでも身体を動かせるほうがいいのでは。

(おそらく1年に1回のイベントとは思いますが)東久留米市では、

ガムを噛んでもらってどのくらい噛めるかを測定したり、息の強さをゲームで手軽に測定できるイベントを実施している。それぞれの市によって（健康祭り等で）実施している内容は異なると思うが。

【委員】これは他の県の例であるが、歩数と所要時間の関係を標識で示したり、身体ストレッチの仕方（踵をのばしてみましょう、等）をところどころ案内しているウォーキングコースもある。また、日中であれば利用者が自由に使える機具を設置しているところもある。

必ず推進員が同席していないとダメというのではなく、今いったような「機具を設置しておく」という方法でよいのでは。

【委員】健康教育的な取り組みでは、どのような取り組みが行われているのか？

【委員】次に「基本目標 2 市民の声を聴き・ともに考える」について検討したい。

【委員】自殺の問題について「増えている」との報告があるが、どのように増えているのか？

【事務局】自殺（者数）については、比較的高く推移している。

「健康ひがしむらやま 21」の評価中、「休養・こころの健康」によると、（自殺が）40代の死亡原因として上位にあることがみとれる。これは全国的に、また東京都全体にも共通の傾向である。また、（市内では）60代以上にも自殺が多いことがあげられる。4、5年前より成人のこころの相談を受けることが多くなってきているが、ここ数年、中高年のかたの来所・相談が多くなった。専門性の高い機関等への案内、また医療機関を紹介するといった方法でフォローをしている。

自殺の原因としては経済的な理由のほか、病気がある。

病気では「うつ病」が理由として一番多い。

【委員】医療相談の回数を増やしたという対応は理解できる。

（別件で）保健事業一覧表の配付とあるが、これは全戸配付されているか。

【事務局】毎年全戸配付されている。

【委員】以前にも検討課題として議題にしたが、保健事業一覧表も再び検討を加える必要があるか？

【事務局】毎年検討を加え、内容を改善している。

【委員】「2 保健福祉総合システムの構築」については、今後検討を進めていくというレベルか？

【事務局】このシステムは、当初の構想としては「窓口でワンストップサービス（ある一定程度の定型業務については一か所の窓口で全て対応できるようにして市民の待ち時間を減らすとともに、職員の負担も軽減するという構想）を」という方向であったが、現在は職員を配置し対応を行っている。

システム機器の導入については、現在のところ予定されていない。今後は、いわゆる「窓口のたらいまわし」がなくなるよう、また職員が同じことを何度も来所者に言わなくて済むよう、仕組みづ

くりを進めていきたい。

【委員】 続いて「基本目標3 ひと・もの・しくみの活用と整備」について検討したい。

【委員】 「健康自主グループ」とはどのようなものか？

【事務局】 市の健康教育に参加したかたが、自主的にグループを形成したものと考えてほしい。ヨガ・料理等のグループがある。

【委員】 各町の地域差について「(程度の) 高低」があると思うが、「低」の町の程度というものは(どのくらいか？)

【事務局】 低下・低迷といったことではなく、保健推進員活動が認識されている(浸透している)度合いの相違である。

成熟度を一定にしたいという思いはある。

今の話は「存在の認知度を高めるにはどうすればよいか」という意味で考えていただきたい。

介護予防的な活動をしていると、なかなか認知度があがらない。

所管課で示している基準は、どの町も満たしている。活動が偏った内容にならないようにしてほしいと考えている。

【委員】 都心部では「無料で自由に集まれる場所がない」という問題があると感じるが、旧東村山保健所跡地の活用状況はどうなっているのか？

【委員】 (ころころの森は) 土曜日は施設を使用できるが、日曜日は使用できない。

【委員】 自分は体育指導員会に加入しているのだが、推進員会単独で活動していると、他の団体に情報がおりにこないことがある。

他団体の助けも借りながらやっていくのがよいのでは。

【委員】 他団体を推薦母体とする推進員が(もっと) いれば(会での決定事項等を) 持ち帰って検討したり、チラシ等を配ってもらえるのだが(なかなかそうはうまくいっていない)。

逆に、既存の団体に(推進員活動を) 受け入れてもらえないということもある。

【委員】 声をかけあって、まずは一緒に何かをやることから始めればいいのでは。

【委員】 地域、地域といいながら、横のつながりが少ないというのが問題である。

【委員】 最近、やっと(自分が属する推進員会と) 包括支援センターとの合同での活動ができるようになってきたのだが。

【事務局】 保健推進員会設立当初は「体力づくり推進委員会とどう違うのか」等の質問・意見があった。

地域によって、(他団体との) 協力の程度にばらつきがある。

事務局に声をかけてもらえれば、調整はする心づもりである。

【委員】 社会福祉協議会で設立している地域福祉懇談会は、体力づくり推進委員会・保健推進員会にも声をかけて実施している。

【委員】 何か、できるところから小さなことでもチャンスにしてやっていけばよいと思う。

続いて「基本目標4 日常生活の中での福祉の充実」について検討いただきたい。

食育については、東村山市では計画を立てていないのか？

【事務局】 立てておりません。

【委員】 食育のデータはあるか？

【事務局】 食育については保健所が中心となり、圏域5市共通で朝食・野菜摂取のキャンペーン等を実施している。

【委員】 ある市では、市内の各町ごとにピーアールするものを変えている。「めざまし スイッチ 朝ごはん」は、市の特性を考えてアレンジしてもよいか？

多少、フレキシブルに考えてもよいのでは。

【委員】 「健康ひがしむらやま21」については資料があったと思うが。

【事務局】 ございます。

【委員】 「介護予防施策の推進について」に関し、骨密度測定は400名を測定することとなっているが。

【事務局】 約200名の応募があり、全員受け入れをして測定を実施した。

【委員】 口腔機能の向上についてはどうか。

【事務局】 包括支援センター・高齢介護課・健康課（歯科衛生士）が共同して事業を実施した。

介護予防については、市内の各施設を使用して実施。

【委員】 歯科医師会でも団体からの希望を受け付け、定員を20名としてブラッシング指導を実施している。

【委員】 40代から50代の壮年域の人にきちんと指導しなければ、8020など（今後）達成のしようがない。

自分は他の市で、比較的若い年齢層のかたが参加する教室をやっているのを見たことがあり「あ、これはいいな」と思った。

【委員】 歯科のモデル地区2町について教えてほしい。

自分の所属する団体でも、この事業をバックアップしたいと思っている。

介護度の高いかたは口の中の状態もよくないことが多く、誤嚥性の肺炎を起こすことが多い。これの発生を抑えれば医療費も削減できる。

口の中の状態をよくする介護予防に、ご本人だけでなく家族への働きかけも含めて積極的に関わっていければ思う。

【委員】 老人施設の「臭い」についてだが、以前は排泄物の臭いがあったが、今は改善されている。しかし、それに代わってというわけではないが、口腔に原因があると思われる臭いがこもっていることがある。良い施設には歯科の先生が定期的に入っており、そのようなところでは寝たきりも少ないなどという話もある。

【委員】 イベントを開催したおり、待ち時間に歯科医師会の先生にブラッシング教室をしてもらい、時間が来たらイベントへ流れていってもらおうということをやった。

モデル地区というのはどの町なのか？

【事務局】 恩多町と富士見町である。

【委員】 今年度の結果を次に生かしていただきたい。

【委員】 考え方としては（口腔ケアと）肺炎球菌ワクチンとの併用で肺炎の（発生率）低下を見込むことや、医療費の削減をはかれるので

はないかと思う。

【事務局】市でも、今年度より肺炎球菌ワクチンの接種を開始する。
先着1,000名で、応募者多数の場合抽選となる。
10月初頭から12月末までの接種期間を予定している。

【委員】「医療体制の充実」について、ここに書かれていることはほぼ達成されていると考えてよいのか？

【事務局】そのようにお考えいただきたい。

【委員】最後に「基本目標5 福祉へのまちづくりの協働体制」について。
3月11日の東日本大震災を経験して、現在策定されている諸計画について「これでよいのか？」との疑念はある。
ひとくちに「防災」といっても、規模によると思う。

【委員】この度の大震災は、国の想定を超えている部分があった。
ただ、この部会場で協議することではなく、自治体が個々に防災について考えていくことではないか。
保健所でもマニュアルを作成しており、それを適宜アレンジして使っていただきたい。

【事務局】東村山市の防災計画は、東日本大震災が発生する以前より見直し作業を進めているところである。
また、要援護者に関する内容については今後の部会で報告させていただくこととなる。

【委員】全体として質問はあるか？

【委員】保健推進員が、ここまで重要な位置づけであるということあらためて認識した。

今回見てきた内容は健康福祉部のまとめとしては分かるが、他の所管で、この「地域福祉計画」に携わっているところはあるか？

【事務局】一次予防的な活動の意味合いで、この資料の保健部分を取りまとめている。

庁内では地域福祉計画推進庁内連絡会を適宜実施し、関係所管と連携をとっている。

【委員】市がこのようなものを取りまとめるのであれば、もっと突っ込んだかたちで全体的な視点をもつべきではないか？

【委員】例えば食育のところでも、学校関係にどのように働きかけているのかを記載してもらえるとありがたい。

【委員】(いまのご意見は) もっと広く市民全体のことを考えて、健康課の視点のみならず他のことも入れてもらえるとありがたい、ということか？

今この場でということではなく、事務局で何がしかのことを検討してもらってよいか？

このご意見は「健康課だけの視点でなくもっと全市的な計画でなくてよいのかとの疑問」と解するものである。

【事務局】市では計画の一つとして「次世代行動計画」というものを策定しているが、そこで0歳から18歳のことを定めている。

18歳以上の市民のことについて「地域福祉計画」で定めている。
次世代行動計画にも保健に関する分野があるが、そこには健康課

が関わっている。
国の法律により、このように（年齢で分けて計画を策定）せざるを得なかったという経緯がある。

(2) その他

【委員】身体的・心理的な理由から推進員活動に参加できないかたもいる。そうしたかたを介護予防活動につなげるにはどうしたらよいか？

【委員】包括支援センターに相談したり、健康課に相談するという方法が考えられる。

5. 閉会

【事務局】次回部会については、策定委員会の進行状況により開催日を正式決定していく。

現時点での予定としては、第3回目を9月下旬もしくは10月初旬に、第4回目をパブリックコメントの前の12月、第5回目を来年2月としている。